

神戸市立いぶき明生支援学校 学校評価報告書

校長名 竹内 寛子

記入者名 中山 純子

項	教育目標	重点目標	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた評価・意見等	改善策
心豊かにたくましく生きる神戸の子供を育てる	笑顔があふれ夢を育み明日を生きていく	児童生徒の主体性を育む授業実践	・児童生徒の実態に応じたICT機器活用に関する研究	・iPadや電子黒板などTeamsの使い方の基本研修を行った。 ・学部閉鎖中に、一部の学部・学年でオンライン朝の会を行うことができた。 ・ICT機器活用の取組について、保護者に十分伝えられなかった。	3.7	・学部閉鎖中、Teamsの使用があったが、本来の授業のような活用は、その子によって使う上での特性も様々で難しい面が多いと思う。	・ICT機器活用の取組だけでなく、学校での生活、授業の様子を保護者に知っていただくために、授業参観週間に学期に1回もつ。
			・児童生徒の生きる力につながる学びの実現に向けた授業改善	・パワーポイントを活用し、児童生徒に分かりやすい授業を心がけた。 ・ICT機器を活用した学習指導案を作成し、各部門・学部で授業実践を行い、報告し合った。	3.6	・ICT等新しい技術の習得と共に、挨拶など社会性の習得も大事だと思う。 ・教職員アンケートで低評価をつけておられる先生方はどのような理由からなのか知りたい。	・具体的な活動内容や手段、配慮等が「生きる力につながる学びの実現」につながっているかを意識しながら計画する。
		児童生徒一人一人に応じた教育活動の実践	・卒業後を見据えた教育課程の改編	・新学習指導要領に基づき、類型別の教育課程の編成に取り組んだ。実際の授業グループや指導体制については今後も検討が必要である。	3.2	・子どもたちの可能性を広げるために、もっとよいやり方があるのなら、いろいろな意見が通りやすく、様々な取組にチャレンジできる学校であってほしい。	・類型別の教育課程での授業グループや指導体制、評価会の持ち方等について検討していく。
			・授業づくりと評価の基となる個別の指導計画の作成	・令和4年度から神戸市で統一される個別の指導計画の研修を行った。各教科、3観点で目標を立て、評価していくこと、学びの履歴シートの作成に向けての準備などに取り組んでいるが、まだ手探り状態である。	3.0	・学校では授業でもとても興味深い取り組みをしてくださっているのに、保護者には知らされていないので、子どもは伝えてくれないので、教えてもらうまで知らないのはもったいないと思う。	・「学びの履歴シート」をつけることによって、各教科の学びが小中高へとつながっていくのかを検討する。「学びの履歴シート」を基に、個別の指導計画の目標をどのように立てていくかを研修していく。
		自立活動の充実	・計画的で系統性のある授業づくりの基となる年間指導計画の作成	・新学習指導要領に基づき、小中高のつながりのある各教科の年間指導計画をそれぞれの学部・部門で作成し、来年度に引き継ぐ。	3.2	・進路に向けて複数の先生方が関わってくれ、一人一人の向き不向きも見極めてくれるのが、本当によいと思う。 ・学びの履歴シートは誰のため、何を目的に活用されるのか。	・作成した年間指導計画を基に授業を計画し、実践する。修正や変更するところがあれば次年度へ引き継ぐ。他学部の年間指導計画を見て、教科のつながりを確認する。 ・道徳、特活、総合的な学習・探究については係を作って、目標や評価について話し合っていく。
・校内支援を活用した支援・指導方法の充実	・支援部により定期的に、発達検査や外部機関との連携、教材などについての情報提供ができた。 ・コーディネーターや実習教員が相談を受けて支援に必要な物の貸し出しや教材についてのアドバイスをすることができた。	3.5	・	・来年度、校外だけでなく、さらに校内支援を充実させたい。			
・自立活動に関する教員の専門性と指導力の向上	・動作、感覚、手指の学習やの全体研修、新着任者研修を計画的に行うことができた。 ・新しい個別の指導計画の作成に向けて、6区分27項目に分かれた実態把握表の見直しを行った。	3.6	・	・来年度も実態把握の全体研修やクラスごとの話し合いの機会をもつ。新しい実態把握表を基に、自立活動の長期目標や具体的な指導内容等を考えていく。			
築き安心・地域安全と共により楽しい学校を支える	安全安心な学校づくり	・新型コロナウイルス感染症対策の徹底	・各部屋の換気を常に心がけ、下校後の消毒を欠かさず行った。 ・大人数で集まる授業や研修はTeamsを活用し、オンラインで分散して行った。	3.8	・	・新型コロナウイルスの感染がおさまるまでは、今年度の対策を続ける。	
		「ヒヤリ」や「ハッ」としたことの報告の徹底と早急な対策	・学校事故防止委員会中心にヒヤリハット・アクシデントの報告が確実にできるように取り組んだ。報告の一覧表や再発防止検討記録を入力しやすい形式にした。	3.8	・マイナスの視点ばかり持つよりも、児童生徒の良い所を見る視点、支援者(教職員)の良い所を認め合う視点を増やせば、良い環境が生まれるのではないかと。	・アクシデント・インシデントの報告が早く確実にできる体制を作る。 ・ヒヤリハットだけでなく、「にこり」「ホッ」としたことも情報共有できる機会をもつ。	
		・校内の教育相談体制の活用(いじめ防止対策に関する取組)	・いじめアンケートを学期に1回実施した。 ・整形相談、発達相談、SCIによる教育相談を定期的に設定し、たくさん児童生徒、保護者が相談を受けることができた。	3.6	・いじめアンケートは、言葉に出せない子どもたちがSOSを出せるツールの一つになればと思う。 ・アンケートが返ってきていない家庭に対して状況確認が必要かもしれない。	・いじめアンケートに答えられる児童生徒が少ないため、個別懇談での保護者の聞き取りも大事にしたい。不登校、虐待などが心配される事案について子どもたちの生活環境や気持ちを知るために関係者で協力する。	
	地域に開かれた学校づくり	・ホームページを活用した情報発信	・すぐるで行事予定や学年だより、保護者アンケートなどを配信することができた。紙ベースでほしいという保護者の意見が多かった。 ・ホームページの更新があまりできなかった。	3.7	・「カフェドリーム」や「いぶき西地域福祉センター前のパン販売」での生徒のみさんの接客態度は明るく元気よく大変好感が持てる。	・行事予定はすぐると紙ベース、学部学年等のたよりは紙ベースで配布する。 ・ホームページで計画的に記事をアップし、情報発信をしていく。	
		・特別支援教育に関するセンターとしての役割の遂行	・地域の幼、小中学校の教育相談や巡回相談を行った。年間通して継続的に訪問する学校もあり、担任と一緒に考えることができた。 ・支援学級担任対象に障害理解、自立活動、教材教具のパワーアップ研修を行った。	3.6	・地元校の井吹西小との交流は、4年生の柱となる行事で大変有意義であった。今後もお願いしたい。来年度は重度の肢体不自由学級在籍児童の入級が予定されているので、引き続き支援をお願いしたい。	・来年度もカフェやパン販売で地域の方々と交流を深めたい。 ・井吹西小との交流は計画的に行う。	
・働き方改革に向けて業務内容の簡略化を図るなど、職員意識改革を進める	・リフレッシュデイは月2回設定した。 ・Teamsやすぐるなどを活用することで業務の改善を図っているが、教職員の評価は低めだった。 ・令和4年度の校務分掌表の見直しを行っているところである。	2.6	・	・ショートワークデイを月に2回設定する。 ・新しい校務分掌表で学校全体の業務の分担を行い、会議の重なりを減らせるか検討していく。それぞれの部の仕事内容や学部内での分掌も全職員に分かるように示す。			
・学校生活のルールや決まり(校則など)について	・	・	・	・来年度は生活の決まり(A部門中学部、高等部)をホームページで公表する。			